

天文遺蹟 金星過日測檢之處 (2)

翠 溪 生

金星觀量標の垂直移動

明治三十六年第五回内國勸業博覽會の大阪市に開催せらるゝに當つて神戸協賛會は右博覽會觀覽者の來遊誘致策として、展望臺擴張工事を行つた。此の時此の標識を移動する必要に逼まれ、縣市兩當局が後記の公文書にあるが如く周到なる注意を拂はれたることを多とする。御都合主義で場所を變更するが如きは往々にあり勝ちの事であるが、此の態度は顧みられない科學史蹟を重視したと信ずると共に此の標識を一層價值あらしめたものと更により多く著名ならしめたものと思ふ。而して「金星臺」の名は恐らく此の碑を垂直移動後、其の展望臺に名付けたのである。

金星觀量標切下据付認可申請

今般市内神戸港地方字諏訪山ニ遊園地設置ノ爲之ガ設備上同所一番ノ二ノ一四市街宅地(三十三坪)ヲ三間切下ゲ地盤ノ取擴ゲヲ要シ候ニ付該宅地上ニアル金星觀量標ハ經緯度ヲ變セス其儘之ヲ低下シ切下ゲ地上ニ据付候ニ付御認可相成度此段申請候也

明治三十五年十月三十日

神戸市參事會

市長 坪野平太郎

〔備考〕

此の申請書は知事宛に差出したるもので市長坪野平太郎氏は神戸郵便局長在任久しく人格高邁なるが故に兵庫縣教育會長に推薦せられ更に神戸市長に就任せられ令名噴々たるものがあつた。

〔備考〕

此の別紙の中表面即南南西に向へる佛文は略字使用多き爲筆の序に書改めることにする。誤なきにしもあらず。

(西面)

ICI
OBSERVON + PASSCEPLANTE
VENUS
9 + DECEME + 1874
COMMON + AST + FRANCE
J. JANSSEN
ACAD. SC. PARIS
CHEF
DELACROIX + CHIMIZOO
OBS
KANDA ET GR DE HIOGO

(東面)

金星過日測檢之處
明治七年十二月九日
兵庫縣令神田孝平在任
緯 經
赤道以北
巴里偏東
大字神戸港地方字諏訪山地番二番
觀量標敷地反別九步
官 有 地
內務省主管
佛國派出人員 長官星學士ジ・ジャンサン
附屬測檢 ドラクルワ
同 清水 誠

Ici
Observation + Passage Planete
Vénus
9 + Décembre + 1874
Commission + Astronomie + France
J. Janssen
Académie Science Paris
Chef
Delacroix + Chimizou
observateurs
Kanda etait Gouverneur
de Hiogo



昭和14年12月9日拓本ヲ寫眞ニ撮リタルモノ

知事 (服部)

第二課長 (佐藤)

内務部長

地理係

東京帝國大學理科大學附屬

天文臺長理學博士寺尾壽へ昭會案

當縣下神戸市神戸港地方字諏訪山貳番地内へ別紙寫ノ通彫刻シタル金星觀測石標有之今般公園設備ノ爲メ該地ハ多少切下ヲ要シ從テ右立標ノ位置ヲ垂直ニ低下スベク候處貴所ニ於テ別ニ異存無之候哉尤モ右ハ貴所ノ御關係ナキ義カトモ存候ヘドモ他ニ問合ノ向モ無之ニ付御意見承知致置度且本件ハ差掛居候ニ付電報ヲ以テ何分御答有之度此段及照會候也

年 月 日

天文臺長殿

縣知事名

明治卅五年十一月四日決

知事 (服部)

第二課長 (佐藤)

内務部 (古宇田)

地理係

神戸港地方金星觀測標識地切下ノ件天文臺へ問合相成候處關係ナク異存ナキ旨別帋回電有之候條左案御指令可相成哉

案 神戸市參事會

明治三十五年十月三十一日庶丙第三四八號申請金星觀量標識地切下ノ件聞届ク

但字諏訪ニ番觀量標識地及別九歩官有ト心得ベシ

知事

〔備考〕

- (1) (服部) 印は當時の長官服部一三氏兵庫縣知事として在任最も長し、貴族院議員に勅選せられた人である。
- (2) (古宇田) 印は當時の事務官古宇田品氏のもので、同氏は後に地方長官となり、貴族議員に勅選せらる。

縣知事服部一三氏の照會に對し、寺尾天文臺長の返電は次の如くであつた。

セキリヒヨウノケンクワンケイナシベツニイゾンナシ テラヲ

此の返電は難解であるが「異存ナシ」とあるに依つて、直に着工したのである。電文の再檢答などは問題になかつた程急いなのである。

因云 天文臺長寺尾博士に對しての照會の案文作製の際、當該係官が、天文臺長と書いたり、氣象臺長と書いたり、書いては消し、消しては書いた跡が歴然と残つて居る。現時でも猶ほ天文と氣象を混同する識者が随分多い。況んや天文の普及してゐなかつた當時に於てをやである。

第 2 圖

觀測に携つた人々——小傳

觀測者たる佛國派出人員は大部分長崎市に於て觀測に従事し、神戸市へはドラクルワ (Delacroix) と清水誠とのみであつた。長官星學士 ジ・ジャンサン (J. Janssen) は來なかつたのである。随つて此の觀測には縣當局が特別の力添をしたことや各方面の人士が應援したものと察せられる。

序に關係者の小傳を記述する。

1. J. Janssen—Pierre Jules César Janssen (1824—1907) フランスの有名な天文學者で、太陽のスペクトル研究、皆既日食に依り紅焰の分析、白晝紅焰の觀測方法(英の Rockyser とは別に)、太陽寫眞觀測等幾多天文學上に業績を残した人である。

2. Delacroix

3. 清 水 誠



昭和14年12月9日拓ス

拓本ヲ寫眞ニ撮リタルモノ

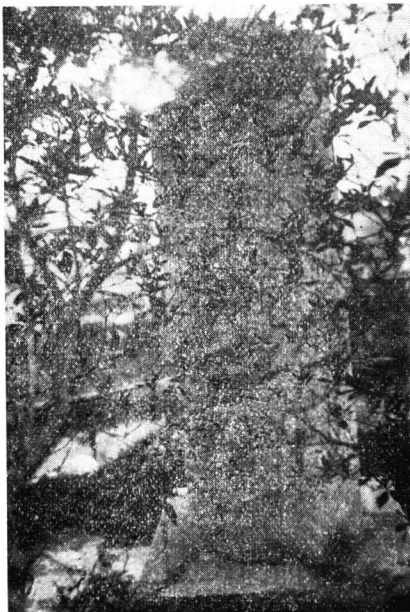
金澤藩士にして、非常に進歩的人で明治3年フランスに留學し、専ら工業方面の研究に従事した。恰も明治7年佛國の金星觀測隊が來朝するに際し、通譯として隨伴の依頼を受け歸朝し、諏訪山に於てドラクルワと共に觀測に従ふ。其後東京市に於て新燧社を興し燐寸製造業をなす。同社長として活躍し、斯業に貢獻する所多大であつた。猶ほ氏の尖端的の事業としては甜菜の栽培、甜菜糖の製造等もあつた。實業界に功績多かりしを以て、大正の御大禮の當日從五位を贈られた。同氏のことは金澤市より執奏し奉つた内申書の原案に詳しく錄されてゐる。

所 感 二 三 !

1. 遺蹟や史蹟といへば直に國民精神作興の標的と誰しも考へる。國內隨所に散在する悉くは時局柄いやが上にも其の保存と尊重とに十分の注意は拂はれて遺憾がない。大にしては愛國心、

第 3 圖

小にしては郷土愛の發露として敬意を捧ぐるに吝ではない。彼の公認のものに至つては國家及府縣の嚴重な保存法が講ぜられて、永久性が濃厚である。



神戸諏訪山金星臺記念碑裏面
(S. I 生撮影)

さてそれ等數多き遺蹟中に科學に關するものが國內に幾箇所ありや、極めて寥々たるもので、而も大衆の注意と興味とを喚起せざるのみか、或は廢墟に等しく顧みられない傾向はありはすまいか、「科學スル心」の餉として此の方面にも一般の心を向けたい。

2. 大正十年佛國答使來朝の節、神戸市に於ても國賓としての歡迎の式を舉げたことがあつた。時の長官有吉忠一氏は歡迎の辭を述ぶるに當つて、此の金星臺のことに觸れて、答禮使の一行を非常に感激せしめたといふ。

流石に名長官の視ひの確實さを稱へずには措かなかつたと同時に此の遺蹟を更に有名なものにしたことに敬意を表する。

3. 神戸市民が精忠萬古に輝く楠子一基の嗚呼碑を國民精神作興のこよなき標的として朝夕に敬仰し、更に一外人の「科學スル心」の小碑石すらも輕視

することなく、能く現在に至るまで十分に保存したことは正に精神文化と科學文明との兩方面に多大の關心を拂へるものといふべきで、實に會心の至りである。(終)

米國物理學會春季總會に於ける天文學に關する討論會

去る五月1日から3日までワシントンで開かれた米國物理學會 (American Physical Society) の春季總會に於ては、160件以上の研究發表が爲されて、その中に天文學に關するものも含まれてゐたが、特に本會の華たる討論會の主題が、下記の通り、殆んど全く天文學に關するものであつたことは、最近の物理學に於ける重要問題解決の鍵が天體現象に存することを示すものとして注目に値する。

“恒星の核エネルギー源”に關する討論會は、3日午後ジョージ・ワシントン大學ガモウ (Gamow) 教授主唱のもとに、國立科學院講堂で開かれた。壁頭ガモウ教授は開會演説を行ひ、“恒星の分類”より初めて、“恒星の爆發”で結んだ。次いで、コネル大學のベୀテ (H. Bethe) は“主列星のエネルギー學”に就いて述べ、ジョージ・ワシントン大學のテラ (E. Teller) は“赤色巨星に於ける輕元素の反應”について語り、ロチェスタ大學のマーシャク (R. Marshak) 及びプリンストン大學のクリッチフィールド (C. L. Critchfield) は“白色矮星の諸問題”に就いて語つた。座長はコロンビヤ大學のペグラム學長で數百名の聴衆が出席し、盛會を極めた。(Phys. Rev. Vol. 59 (2) No. 11)

正 誤

第238號 (昭和16年四月號)

表紙第2頁口繪カニンガム彗星、右方ノモノ 十二月21日19時20分 九月21日19時20分

第241號 (昭和16年七月號)

前附廣告第2頁、上部天文寫眞第一輯第8號	ヘルクレス珠狀星圖	ヘルクレス球狀星團
第216頁 下部、表彰者一覽表、8岡林滋樹	15年5月18日	16年5月18日
第223頁 第12行目、3. 木邊觀測部長	ドノホ1賞牌の紹介	ドノホ1賞牌の紹介
第225頁 「各課長へ御願ひ」ノ第3行目	詳細は次號に	詳細は次號に
第229頁 輻射點表ノ中、 第1604號輻射點ノ備考	Praconid	Draconid
第(331)頁 表彰狀第八號第14行目	「ベラスケ……	ベラスケ……」